

産地戦略

実施主体	滋賀県
都道府県	滋賀県
対象地域	県域（全19市町）
対象品目	水稲、ブロッコリー



化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	● 温室効果ガスの削減（その他）

滋賀県では、田畑輪換や地球温暖化の影響により、水田の地力が低下傾向にあり、水田作物（水稻、麦および大豆、野菜）の収量および品質が不安定となっている。また、肥料価格の高騰に伴い、化学肥料に依存しない施肥体系への転換が求められている。牛ふん堆肥は、地力向上や土壌への炭素貯留によるCO2排出削減が期待されるものの、専用散布機械の導入や流通体制の整備、堆肥の品質、散布時の臭気・粉じん等の対策が課題となっている。そこで、肥料と同じ散布機で散布でき、臭気・粉じんが軽減されるベルト牛ふん堆肥を用いた栽培実証を通して、減化学肥料栽培や土壌炭素貯留量の増加によるCO2排出削減したグリーン栽培体系への転換を進める。

[illegible]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			○ ●		◆	■	◆						○移植 ◆施肥 ■収穫
技術名			減化学肥肥料（基肥）				牛ふん堆肥施用						

[illegible]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				◆ 基	○ 播	◆ 追肥	◆ 追	■ 収					○播種 ◆施肥 ■収穫
技術名				減化学肥肥料（基肥） 牛ふん堆肥施用									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

水稲、ブロッコリー	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	28390	▶ 28390	水稲、ブロッコリーを合わせた面積
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	5.3	▶ 70	水稲、ブロッコリーを合わせた面積
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	5.3	▶ 70	水稲、ブロッコリーを合わせた面積
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	5.3	▶ 70	水稲、ブロッコリーを合わせた面積

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	牛ふん堆肥の施用なし	▶ ペレット牛ふん堆肥の施用	化学肥料の使用量の削減 温室効果ガスの削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学肥料の使用割合	100%	▶ 70%	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・事業成果を栽培指導指針等へ反映し、技術の普及を図る。
- ・ホームページで公表し、周知する。

関係者の役割

関係者名	近江米振興協会	湖北農業普及指導センター 湖東農業普及指導センター	生産者	
役割	・事業手続き ・事業のコーディネート ・事業計画、結果とりまとめ、事業 進行への助言指導	・技術指導、調査 ・事業結果のとりまとめ	・実証ほの管理 ・技術の検証	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R●）（ha）	備考

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

--

その他